

9. 縁起呪

『五重の道のマハームードラの前行』の中に「縁起呪」という長いマントラがあります。なんだか意味不明なので調べてみました。サンスクリットに復元すると、次のようになります。（このサンスクリットは、チベット語の綴りに従っているので、すこし訛っています）。

om, ye dharm? hetu-prababh? hetum te?an tath?gatohya
vadata,
te?an cayo nirodhah evam vadi mah?sramanah ye, sv?h?

諸法從縁生 如來說是因 是法從縁滅 是大沙門說

諸法は因によって生ず。如来はその因を説く。

この法はまた因によって滅する。それが大沙門の教えである。

釈迦牟尼仏は菩提樹の下で悟りを成就されて後、バーラナーシーに行かれ、5人の比丘に法を説かれます。その中にアシュヴァジット（パーリ語ではアッサジ）という比丘がおりました。

ある日、アシュヴァジット比丘が托鉢して廻っていると、外道の指導者の弟子であったシャーリプトラがアシュヴァジットを見かけて、その美しい威儀に感動して、「あなたはどなたの弟子か、どのような教えを受けているのか」と尋ねました。アシュヴァジットは、「私はゴータマ師の弟子ですが、初心者ですので、教えについ

ては少ししか知りません」と言いました。シャーリプトラは、「知っているだけでいいから教えていただけないか」と頼んだので、アシュヴァジットは上の偈の前半部だけを覚えていたので唱えました。

シャーリプトラはただちにその意味を知り、師の元に帰って許しを請い、釈迦牟尼仏の弟子となりました。このときマウドガルヤーヤナも一緒についてきて釈迦牟尼仏の弟子なり、後に教団を率いるほどの大弟子になりました。しかし、シャーリプトラは釈尊よりも先に遷化したので、後継者にはなれませんでした。

読み方は「おん いえ だるまー へとう ぷらば
ばー へとうん てさん たたーがとーひゃ わだた
| てーさん ちゃよー にろーだ えわん わー
でい まはーしゅらまな いえ すわーはー」でしょう
が、チベット風に訛るなら、「おむ いえ たるま へ
とう たばわ へとうん てかん たたがとひゃ わだ
た | てかん つあよ にろた いえわむ ばでい ま
はしゃまな いえ そーは」でしょうか。